古學臺嚢抄

通名 俳諧切字論　初編二冊　料 五匁五卜

此書は芭蕉翁代といふ㭾一巻に有せしを世に東花坊古今抄にも外をとく巻暁山集寂栞にも栞抄饒舌縁やる徳て元禄より今に至る近世俳諧までなそは切字の事を教へたるくちさまく〳〵ひが事多く交りゐるを改正し七部集の内にては其のえざる句を論じ又なにはそこのえざるなる見えて其のひとる句又切字なきやうなる見えてよき句を挙古来いろは四十七字皆切字なりといへる説を論し初心の人までは切字のなそあぐ心得らるゝやうみな古人の句をきそかてそしてさとしたる書也

かしら本小元

弘所　日本橋通四丁目
金花堂須原屋佐助